

薄く切り、眞の木瓜と呼び賣る、偽物ありといへども、櫃子の主治云に、功與木瓜相近とも見えれば、木瓜の代用となして佳なるべし、又この玄どみをあせびとなせば、山野ともに自生多く、千種の花よりもことかはりたる色にてめづべきなり、又この不時花は六七月開くは、春さく花に異ならざれども、九月の頃開く花は其萼綠色にて、花の色は春よりも艶なり、衆草のおどろへたる中に、玄とみの花の一二輪開たる、王安石が萬綠叢中紅一點、動人春色不須多といへる句のかなへるは、此不時花に勝れるはなし、尤この句は春のことなれども、秋はさらなり、略

〔重修本草綱目啓蒙二十五〕 椴木

アシミ 萬葉集 アセボ 古今通名 馬酔木 上 共同 アセミ 古歌 伊ワ
 モチ 薩州 アセビ 枕草子 アセモ 江戸 アセボ 播州 エセビ 勢州 ヨシミ 筑前 ヨシミ
 シバ 同上 ヨ子バ 豊後 アシブ 雲州 ヒサキ 本和 ドクシバ 豫州 カスクイ 備前
 ナザカ モリ 丹後 ラナダカ モリ 同上 テヤシバ 長州 アセボシバ 越前 ヨセボ 豊前
 マヤキ シバ 藝州 シヤリ シヤリ 加茂州 上

山中ニ五六尺ノ小木多シ、年久キ者ハ丈餘ニ至ル、葉形細長ニシテ鋸齒アリ、拾ノ葉ニ似テ薄ク硬シ、互生ス、冬凋マズ、春枝頂ニ花アリ、色白ク、緜木花ノ形ノ如シ、穂ノ長三寸許、多ク集リ垂ル、後小子ヲ生ズ、亦緜木ノ子ノ如シ、若シ牛馬コノ葉ヲ食ヘバ、醉ヘルガ如シ、故ニ馬酔木ト云、鹿コレヲ食ヘバ、不時ニ角解ス、又菜圃ニ小長黒蟲ヲ生ズルニ、コノ葉ノ煎汁ヲ冷シテ灌グ時ハ、蟲ヲ殺ス、

木藜蘆

〔重修本草綱目啓蒙十三〕 木藜蘆

ハナヒリノキ アクシヨギ 加州

東北國ニ多シ、江州ニモアリ、小木ナリ、高サ尺ニ盈ズ、或ハ四五尺、葉ハ形長シテ、オハナシノ葉ニ似テ、短ク毛ナシ、互生ス、夏ニ至リ穂ヲ出ス、長サ四五寸、小白花ヲ開ク、葉ヲ採リ末ト大シ、鼻中ニ入レバ、嚏ル故ニ名ク、廁中ニ入ルレバ、蟲ヲ殺ス、